

立命館小学校 5年 / 算数

単元：比とその利用



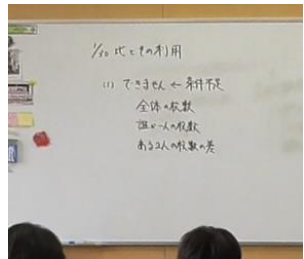
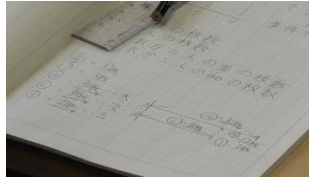
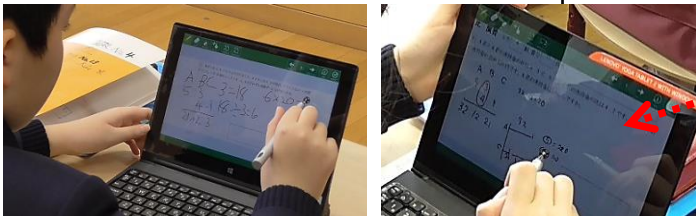
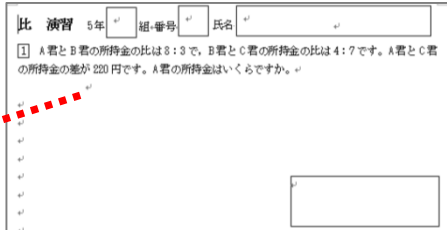
※同校カリキュラムにより、6年生の単元を学習




先生自作の記述式問題で
形成的に評価し、授業を展開

<本時の目標>

- ・比を使って、比べる量ともとにする量の求め方を理解する。
- ・必要な条件を定めて、決まった比に分けることを考える。

<授業の流れ>

学習活動	教師の働きかけ
<p>1 問題提示</p> <p>問題文) 太郎君と次郎君と三郎君は百人一首をしました。太郎君と次郎君の取った札の枚数の比は5:3で、次郎君と三郎君の枚数の比は2:3でした。それぞれ何枚ずつ取りましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ●問題を読んで理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・条件が不足しているため、わからない ●3人の取った枚数を連比で比較する。 	<p>百人一首をして取った札の枚数はそれぞれ何枚でしょう。</p>  <p>どう？できそう？</p> <p>全体の枚数がわからないから・・・、できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ○条件不足の中、「誰が一番多いか」などわかることを整理するように促す。
<p>2 必要な条件を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知りたい条件をノートに書き出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ある1人の枚数 ・3人の合計枚数 ・ある2人の枚数の差 <p>どれを教えてくださいませんか？</p> <p>では、発表します。太郎君と次郎君の枚数の差は、12枚です。</p>  <p>枚数の差！</p>   <ul style="list-style-type: none"> ●知った条件を用いて問題を解く。 ●他の人の解答を説明する。 	<p>何が分かればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの意見を板書する。 ○知りたい条件を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCで問題を送り、解くように指示する。 ○既習の線分図と関連づける。
<p>3 タブレットPCで問題を解く</p> <p>自分のタブレットPCを使って問題を解く。</p>  <p>タブレットPCに配布された問題に、連比や線分図を使って解答する様子</p>	<p>教師がWordで作成</p>  <p>※解き終わったら、教員に解答データを提出します。早く終わった子には、類似問題を配布します。</p>

学習活動	教師の働きかけ
<p data-bbox="192 285 364 314"><画面イメージ></p>  <p data-bbox="511 700 682 762">1番難しかった 3問目を解説しますね</p> 	<p data-bbox="759 134 1339 265">○テスト形式で形成的評価をし、チェックを入れ、間違っている問題があれば丁寧に解説する。また、間違っている問題によって次の問題に出す条件を変える。</p> <p data-bbox="778 294 1130 327">解答データを先生用PCで採点・集計</p>  <p data-bbox="916 652 1296 708">先生用PCで作成した「採点ブック」にて、生徒の解答状況を確認する様子</p> <p data-bbox="873 998 1345 1040">※テスト実施後用に、応用問題も用意していたが、今回は、正答率の低かった問いを丁寧に解説することに。</p>

<先生の声>

- Wordで作成したテストを簡単にデジタルテスト化できるので、とても便利に感じています。
- 自動採点・集計された結果を形成的に評価し、子どもたちの理解度を授業中に知ることができます。その結果を授業の展開に活かすことができるのがABCの良さだと思います。
- 今回の授業では、子どもたちの解答の串刺しデータおよび机間指導時の様子から、できている（またはできていない）子どもがどのくらいいるかをすぐに判断し、理解の定着を図るために、一番難しい問題の解説に時間を割きました。（本時では子どもたちの理解度に応じて応用問題も用意していました。）
- 子どもたちの解答データが記録されていて後からチェックできるので、授業後などに「ここ間違っていたけど大丈夫？」といった声かけにも活用しています。
- 朝学習の時間で、国語科のABCテストに取り組んでいます。自己採点機能で自動採点されて、採点結果がすぐにフィードバックされるので、子どもたちは「ABCのテストが楽しい！」と話しています。

※本事例は、立命館小学校様（京都市）にて、DNPデジタルテストシステム「AnswerBoxCreator」を用いて実践いただいた授業例です。

<開発元>

大日本印刷株式会社

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1 TEL : 03-6735-6195
URL : <http://www.dnp.co.jp/opennote/index.html>

Copyright © 2016 Dai Nippon Printing Co., Ltd. All Rights Reserved.

<問合せ先>